

課題番号 : 25 指 5  
研究課題名 : NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究  
主任研究者名 : 三好知明  
分担研究者名 : 慶長直人、小原博、仲佐保

キーワード : 国際医療協力、ネットワーク、海外拠点、e-learning、研究能力

研究成果 :

### 1. 開発途上国のNCGM拠点施設における研究能力の開発に関する研究

本研究班では「ラオス国家保健研究フォーラム」(NHRF)を通して、ラオスにおけるNCGM海外連携施設であるラオス・パスツール研究所(IPL)との関わりをより深め、フォーラム活動を推進していくことにより、ラオス国全体の研究体制の強化と研究内容の向上を図ってきた。最終年度にはNHRFの実施母体である国立公衆衛生院(NIOPH)と協力協定(MOU)を結び、新たな海外連携施設として加え、ここに海外拠点オフィスの整備と強化を行った。また、サワナケート県(SVK)においては、保健スタッフと研究者の連帯・共同研究をモデル的に実施し、中央の政策策定者、研究者さらには県レベルの政策実施者が連携して研究しそれを政策提言に繋げる研究体制構築を行った。

#### 1) ラオス拠点形成によるラオス国全体の研究体制の強化

平成25年、NCGMがリードする形で各国のパートナー形成を行い、第7回NHRFはラオス国が主体的に実施する体制を、フランス、イギリス、ドイツの各保健研究パートナーが共同支援する形で、初めて実現した。IPL内NCGMラボだけでなくフランス大使館を中心とし、IRDやラオス熱帯医学大学院大学等の全てのフランス関連支援機関等が参画したことにより、ラオス保健研究を支援する大きなドナーはほぼ全ての参画が実現した。また、特記すべきことはNIOPHとラオス保健科学大学の共同によるNHRF開催が実現したことで、これによってラオスの保健医療分野の研究を実質的に担っている二つの機関(IPLとNIOPH)の協調が実現し、ラオス国としての研究のオーナーシップも強化された。

平成26年はよりラオス側のオーナーシップが強められる形で第8回NHRFが開催され、NIOPHとラオス保健科学大学の共同によるNHRF運営体制が確立された。また、IPLでは正式にJICA(国際協力機構)とJST(科学技術振興機構)によるSATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム)による大規模研究プロジェクトが開始された。これらのことにより、NIOPHが推進する保健政策・社会医学研究と、IPLが推進するバイオ技術を核とした感染症研究の両面について、NCGMを中心としたJCHRの支援基盤が形成された。

平成27年、第9回NHRFでは、保健研究の責任部署であるラオス保健省訓練研究局から「保健研究の推進と管理に関する戦略(Strategy on the Promotion and Management of Health Research)」を発表され、第9回NHRFでは本戦略の実施のための議論が行われた。

オンラインによる保健研究登録システムや研究データベース構築と併せて、ラオスの保健研究体制はかなり、強化されてきたが、その中でNHRFの果たした役割はより大きくなっている。さらに支援を強化するため、本フォーラムを管理しているNIOPHをラオス第2の海外拠点として、10月20日に包括的協力協定(MOU)の署名を行った。

#### 2) 保健スタッフと研究者の連帯・共同研究

サワナケート県(SVK)の活動としては、NIOPHとJCHRが研究フィールドとしており、僻地保健医療研究の拠点としてセボン郡に、村落保健ボランティア・トレーニングセンターが日本大使館の支援のもと平成25年10月に開所され、研修マネジメントの導入を行ってきている。さらにNIOPH・保健科学大学及び県レベルとの討議の結果、研究ニーズとして高いが、研究の実施と成果が得られていないものとして母子保健研究があげられ、平成26年度以降は、これを基盤にマラリア対策研究とともに母子保健研究を開始した。NIOPHとともにサワナケート県保健局が積極的に参画し、県レベル行政官が研究者とタイアップして遂行し、特に業務のなかでの疑問を研究の計画に反映させることを行ってきた。この一環としてヘルスセンターレベルの分娩記録の分析が開始され、舗装道路等物理的にアクセスがよい村落でも郡病院やヘルスセンター等の施設分娩にアクセスしていないことが明らかになった。さら

に平成 27 年度はこれらの村落で、施設分娩を促進させる要因を明らかにする研究を実施して、国レベルへの政策への還元とともにヘルスセンターの業務計画策定に反映させた。

## 2. ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の設備に関する研究

ベトナム拠点スタッフに対して臨床疫学研修を毎年実施し、研究の補助業務に必要な技能を段階的に修得してもらうことを繰り返すことにより、拠点スタッフの質を向上させ、屋根瓦方式で拠点全体の研究の質の向上を図ることを目的とする。

講師陣は、個別研究の実施に際してコンサルテーションチームの役割を担いつつ、ベトナムにおける重要な研究テーマについて、個別研究の実施妥当性の検討、カウンターパートの選択、国際間の倫理的諸問題、プロトコル作成、研究費試算、申請書作成、必要な臨時スタッフの雇用、実施モニタリング、データ入力/整理、基礎統計、論文作成まで支援できる高品質な臨床疫学研究支援体制の強化を目指す。研修を受けた人材が、実際にモデル研究を実施することでベトナム拠点から国際的に通用する研究成果を報告し、その質の高さを内外に知らしめる。

ベトナム・ハノイ市バックマイ病院において 2014 年 12 月 24、25 日と、2015 年 2 月 26、27 日の 2 回にわたりセミナーを実施した。研修コースを日本側に頼るのではなく、自律性を求め、ベトナム国内の専門家に依頼して継続した。具体的には、ハノイ医科大学公衆衛生学の准教授である、Hoang Van Minh 先生を招聘した。第 1 セッションでは、医学研究のスタディーデザイン、基礎統計量の定義、統計ソフト STATA を用いながら、二群間での連続変数の分布の比較、連続変数間の相関、二群間でのカテゴリ変数の頻度の比較、関連性の統計量についての講義と実習、第 2 セッションでは、ロジスティック回帰、直線回帰モデル、生存分析を中心に講義と実習を行った。

現在、ベトナムのハノイ拠点には常勤者が 2～3 名勤務しているが、非常勤者も、数名ずつプロジェクトごとに働いており、今後の拠点の発展のためには比較的若年の非常勤者が知識を得、経験を積み、中堅として実働を担う必要がある。彼らは、すでに、拠点における物品の管理や日越の研究者の会合の設定、連絡補助など事務系業務のほかに、研究遂行補助の専門集団としての役割を果たしている。実際に、研究計画書、倫理委員会申請書、説明同意文書、症例報告書、検査報告書、個人票の現地語作成、研究実施機関の医療関係者との打ち合わせ、事前研修、研究遂行中のモニタリング、問題点の把握と解決、各種報告書の回収と入力補助、臨床サンプルの輸送手続きと梱包補助に携わっており、上記のような臨床疫学研修コースでさらに理論的、体系的な知識を得るとともに、経験を深め、より大規模な質の高い研究に対応できる人材として育てている。

実践的なモデル研究として、「ベトナムにおける副鼻腔気管支症候群の研究」を実施した。この研究自体は、途上国における慢性上下気道感染症の実態を知ることが目的としているが、拠点の若い非常勤者がシニアの常勤者とペアで上記役割を果たしており、on the job training としての経験を蓄積した。喀痰、咳嗽を伴う慢性副鼻腔炎に罹患する 200 名の患者の下気道感染に関する詳細な臨床疫学情報を収集することができた。現在、引き続き上記、2 名の拠点スタッフが、データ入力と基礎統計解析を担当しており、その結果は一部、平成 27 年度春の日本呼吸器病学会の English poster-discussion のセッションで発表した。また、結核症研究において、ベトナム拠点スタッフに対する臨床疫学研修が生かされた、国際誌論文を、5 編、期間中に報告した。

## 3. 海外連携施設における効果的な事業のありかたに関する研究

本研究は、カンボジアにおける人材研修及びモデル事業の実施により、海外連携施設による効果的な合同事業のあり方に関する提言を行うとともに、ミャンマーらの国との合同事業に関する協定を結び、それらの成果を評価し、合同事業の在り方に関して提言するものである。現地との信頼関係がある海外連携施設と協定を締結し、NCGM の将来の諸活動のための拠点とするとともに、独立行政法人となった国立国際医療研究センターの中期目標の「毎年 1 か所～5 年で 5 か所と連携協定を結ぶ」に貢献するものである。

1) カンボジア：平成 24 年 12 月に国立母子保健センターと NCGM との間において最初の合同事業覚書を締結、平成 27 年 10 月にこれをさらに 3 年間延長し、活動を継続している。

- ・ 臨床技術強化、日本人レジデントの現地研修およびカンボジア人本邦研修、研究（新生児および助産分野）による新生児分野における臨床能力強化支援を行っている。

- ・ 平成 25 年から 27 年の間に 4 回の技術報告会議実施し、臨床の研修結果、各研究の成果を発表した。
- ・ 平成 27 年 10 月には、JICA 草の根スキームで、子宮頸がん早期診断早期治療に関する技術協力へ展開している。NCGM 関連の事務手続き等のために現地スタッフを雇用すること等により、環境を整える必要性（海外拠点として雇用）がある。

2) ミャンマー：平成 26 年以前に保健局と取り交わされた覚書、平成 26 年 4 月に締結された保健省保健局と NCGM 間の合同研究の覚書に基づき、主に保健行政官による政策に関連した研究が実施されてきた。平成 27 年 4 月に保健局が医療サービス局と公衆衛生局に分かれ、平成 28 年 3 月には、医療サービス局と新協定を締結、公衆衛生局とは基本的に合意し、新覚書を締結する予定である。

- ・ 年 2 回の研究に関する合同研究会（プロトコールミーティング）を実施した。
- ・ 平成 27 年 8 月に国家衛生検査センターと多剤耐性菌に関する研究への展開するための研究協力を合意、研究を開始した。

3) インドネシア：インドネシアにおけるスリアンティサロッソ病院の役割と日本に国立国際医療研究センターの役割が類似していること、NCGM の感染症関係の国内に対しての研修などに関して是非、取り入れたいとのことから、NCGM との保健医療協力を強く希望された。一方、NCGM の国際感染症センターとしても MERS、鳥インフルエンザ関連の研究のフィールドの重要性を認識しており、平成 27 年 5 月にインドネシア、スリアンティサロッソ病院にて感染症に関するシンポジウムが開催され、平成 27 年 12 月に研究協力覚書を締結した。

#### 4. ネパール拠点を活用した人材育成能力強化に関する研究-ODA プロジェクトの成果拡大を視野に入れて

ネパール国カトマンズ市のトリブバン大学医学部 (IOM) に設置された NCGM 海外拠点の管理能力強化を通じて、ネパール国における医療人材育成に寄与することを企図し、本分担研究を実施した。IOM ではかつて ODA による無償資金協力及び技術協力プロジェクトが実施され、NCGM から多数の医師等が派遣された。拠点活動は ODA の成果拡大の観点からも効果的な施策であると考えている。人材育成は研究及び診療能力向上にも直結する。3 年間の成果を以下に記す。

1) 拠点管理能力強化：2013 年 1 月 18 日、NCGM 総長-トリブバン大学医学部長間で Memorandum of Understandings (MOU) が締結され NCGM 海外拠点となった。ネパール側の管理責任者として副医学部長と公衆衛生学教授が指名された。その後、IOM 内に拠点オフィスを設置し、ネパール側の拠点管理責任部署である微生物学教室スタッフ（ネパール拠点要員）に対し拠点管理に関する指導を実施した。

2) 人材育成：呼吸器内科で実施している画像診断を用いた研究（肺線維症に関する研究）をサポートし、研究計画作成、画像診断、症例解析に寄与した。また、公衆衛生学で実施している疫学研究（マラリア対策、下痢症に関する研究）を疫学手法の観点からサポートした。同教室スタッフとともに解析から学会発表、報告書作成まで一連の作業を実施した。

3) 研究支援：ネパール拠点設置後、多剤耐性菌、院内感染対策、マラリア対策とヘルスシステム強化、感染症と糖尿病の 2 重負荷、新興病原体による下痢症等の研究及び関連した人材育成を実施してきた（即ち感染症領域における新規健康課題）。1) に記した拠点管理責任者及びネパール拠点要員らとともにこれらの研究活動が順調に進捗するよう適宜支援した。

4) 合同会議開催等：ネパール拠点を活用して実施された研究成果を共有し、得られた成果について議論を行うことを企図して合同会議” Joint Conference on Infectious Diseases with Growing Concern in Recent years in Nepal” を 2 回開催し、共同研究結果に基づく演題発表後、対策の在り方等について検討した。本合同会議は成果の共有及び問題認識や対策に関する認識を高めることに寄与した。

5) ネパール地震における IOM の果たした役割に関する調査：2015 年 4 月 25 日、マグニチュード 7.8 の地震がネパールを襲った。この地震によりカトマンズ市は大きな被害を被り、死者 8,800 人、負傷者 23,000 人に達した。トリブバン大学医学部も一部被害を受けた。地震直後より、トリブバン大学医学部付属病院は救援医療活動を開始した。病院はフルに活用され、構内にはテントが張られて医師、看護師らは負傷者の救済に当たった。

**Subject No. : 25-Shitei-5**

**Title : Research on the utilization of the NCGM collaboration institutions and strengthening their research capacity**

**Researchers : Chief Researcher; Chiaki MIYOSHI, Collaborating Researchers; Naoto KEICHO, Tamotsu NAKASA, Hiroshi OHARA**

**Key words : international collaboration, network, collaborating institution, e-learning, research capacity**

**Abstract** : Results in each country are as follows:

1. Research on the utilization of the NCGM collaboration institutions and strengthening their research capacity

**Lao PDR:** This study aimed to improve research contents and also strengthen research system of Lao PDR by promoting the activities of "National Health Research Forum" (NHRF) and deepening the involvement of the Laos-Institut Pasteur (IPL) which is the NCGM overseas collaboration institution in Lao PDR. In 2015, the final year of this research, the NCGM signed the Memorandum of Understanding (MOU) for cooperation agreement with the National Institute of Public Health (NIOPH), which manages the NHRF.

1) Strengthening of the research system of the Lao PDR by formulation of overseas collaboration institution in Lao PDR

In 2013, an implementation system where Lao side took the initiative to organize the 7th NHRF was introduced with joint support by the NCGM-led research partners including France, the United Kingdom and Germany. In 2014, Lao side took more ownership for the 8th NHRF which was jointly held by the NIOPH and Laos Health Sciences University. In addition, after a large-scale JICA research project with the IPL (SATREPS) has been launched, the base of support was formulated by the JCHR (including the NCGM as the central body) for both types of researches on 1) health policy and social medicine promoted by NIOPH and 2) infectious diseases with a core of biotechnology promoted by IPL. In 2015, the "Strategy on the Promotion and Management of Health Research" was issued by the Department of Training and Research of the Ministry of Health (MOH), and Policy Dialogue was performed for its implementation in the 9<sup>th</sup> NHRF.

In conjunction with the establishment of online system of health research registration and database (Lao PDR Health Research Portal), the system for health research has been greatly enhanced. For further strengthening, the NCGM signed the MOU for Comprehensive Cooperation Agreement with the NIOPH in October 2015.

2) Collaboration with health staff for joint research

As for the activities in SVK, the Village Health Volunteer Training Center was constructed in 2013 with the support of the Embassy of Japan in the Lao PDR, which introduced training management. After the discussion with the NIOPH, the Health Sciences University and the provincial officers, the

research on the MCH has been implemented together with malaria control research since 2014. SVK Health Department participated in these researches actively with the NIOPH researchers to reflect questions arising in their daily activities. The delivery work records at the health center were analyzed, by which it was explored that the villagers did not use the district hospital or health center for delivery, even in the villages with relatively good access to the health facilities. Following a study undertaken to identify promoting factors of delivery at health facilities in these villages, the results were reflected to health policy at national level and activity plan at the health center.

## 2. Study on the implementation of high-quality clinical epidemiology research and the support system in the overseas collaboration institution in Vietnam

**Vietnam:** The objectives of the research are to improve the quality of the local staff and that of researches by conducting/repeating clinical epidemiology training annually. With playing the roles as the consultation team in the practice of the individual studies, lecturers aimed to strengthen the support system for high-quality clinical epidemiology study. Two seminars were conducted at the Bach Mai Hospital, Hanoi, Vietnam in 2014 and 2015.

Currently, there are two or three full-time staff, as well as a few part-time staff working on a per-project basis, at the Hanoi Office. For future development of the collaboration institution, training for young part-time workers is necessary. They are already working as a professional group of research assistance as well as on the office-based duties. They are expected to be the human resources to cope with higher-large-scale quality research to obtain theoretical and systematic knowledge with deepening the experience, by attending clinical epidemiology training course, such as described above,

As a practical model research, "Study of the paranasal sinuses bronchial syndrome in Vietnam" was conducted. This research was intended to grasp the actual situation of chronic upper and lower respiratory tract infections in developing countries, where young part-time worker would get experience on the job training, by playing the role of full-time staff working in pairs with the senior full-time staff. Currently, two staff continue to be responsible with data entry and basic statistical analysis, and their results were presented at the English poster-discussion session of the Japanese Respiratory Disease Society in 2015. In addition, clinical epidemiology training for Vietnamese staff was utilized in tuberculosis research. Five papers were published in international journals during the research period.

## 3. Research on the way of effective projects in overseas collaboration institutions

**1) Cambodia:** A first joint venture memorandum of understanding was signed between the National Maternal and Child Health Center and NCGM in 2012, which was extended for further three years in 2015. Clinical capacity building in neonatal field through research (neonates and midwifery field) was conducted. Four technical report conferences were carried out, and results of clinical trainings and

researches were presented. It has deployed to the technical cooperation related to early diagnosis and early treatment of cervical cancer utilizing the JICA Grassroots Technical Cooperation Scheme in 2015.

**2) Myanmar:** Dpt. of Health has been divided into Dpt. of Health Service and Dpt. of the Public Health since April 2015. NCGM signed a new agreement with Dpt. of Health Service in March 2016, and it is expected that a new agreement will be signed with Dpt. of Public Health. Joint Research Meetings (the Protocol Meeting) were conducted twice a year. Research collaboration for the research on multi-drug resistant bacteria with the National Health Laboratory has been agreed, based on which the research started in August 2015.

**3) Indonesia:** Since the roles of Sulianti Saroso Infectious Disease Hospital (SSIDH) and the NCGM are quite similar and also the SSIDH would like to adopt the NCGM's training courses on infectious disease, the SSIDH requested health and medical cooperation by the NCGM. On the other hand, the NCGM recognizes the importance of the research fields of MERS and avian influenza, a symposium on infectious diseases was held at the SSIDH and the MOU for research collaboration was concluded in 2015.

#### 4. Studies on capacity development of human resource utilizing the IOM-NCGM Research Collaboration Office in Nepal

In January 2013, MOU was concluded between the NCGM and the Institute of Medicine Tribhuvan University (IOM), by which a unique cooperation was started focusing on research and the relevant human resource development. The purpose of this study is to strengthen capacity development of human resource at the IOM, by taking advantage of the overseas platform of the NCGM located at IOM (IOM-NCGM Research Collaboration Office). During the period 2013-2015, the following activities were carried out: 1) Improvement of management capacity at the IOM-NCGM Research Collaboration Office, 2) Improvement in human resource development at IOM, 3) Support of collaborative researches between the NCGM and the IOM., 4) Organizing Joint Conferences (2013 and 2014), 5) Survey on contribution by the IOM/TUTH to medical care for casualties of the earthquake in April 2015, 6) Situation analysis on the current IOM etc.

Fruitful results have been obtained in collaborative researches (multi-drug resistant bacteria, nosocomial infection control, malaria control and health system, double burden of communicable and non-communicable diseases, diarrheal diseases, etc.). Besides, these activities contributed to human resource development at the IOM.

IOM has developed to be one of the best medical institutions which receives the deep reliance from the nation and makes many contributions to various medical activities in Nepal. The IOM-NCGM Research Collaboration Office is carrying out a new and unique collaboration after the end of ODA projects, which could contribute to expansion of the ODA.

# NCGMの海外連携施設の活用と 研究能力強化に関する研究 (25指5)

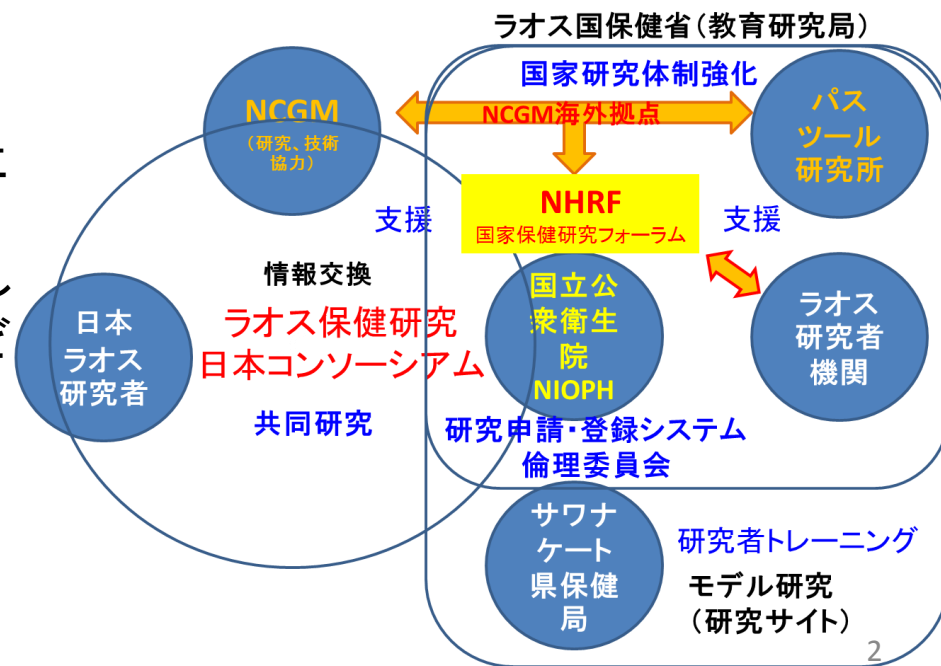
## 研究構成

研究者名	主任/分担	研究課題名	対象国
三好知明	主任研究者	NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究	ラオス
慶長直人	分担研究者	ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の整備に関する研究	ベトナム
仲佐保	分担研究者	海外連携施設における共同研究実施可能性に関する研究	ミャンマー カンボジア インドネシア
小原 博	分担研究者	ネパール拠点を活用した研修能力強化に関する研究- ODAプロジェクトの成果拡大を視野に入れて	ネパール

# NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究

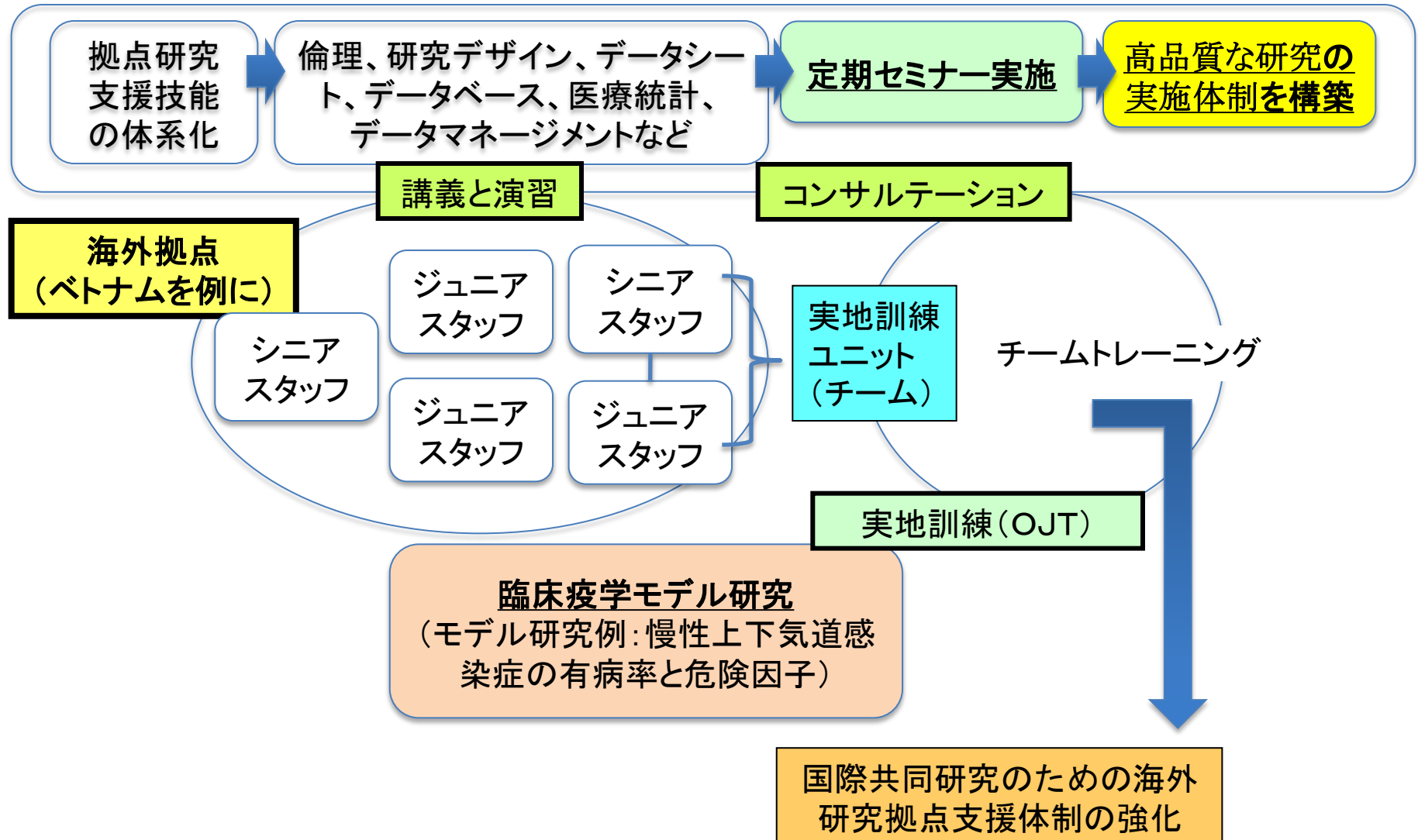
- **目的:** ラオスにおける海外連携施設(ラオス・パスツール研究所)との連携体制を確立することや、ラオス国保健サービス立案者・実施者(中央、地方レベル)との共同研究を行うことによって、ラオス国保健セクターの**研究能力の強化**および**強化方法等を開発**することを目的とする。
- **内容:** 「**ラオス国家保健研究フォーラム(NHRF)**」を通して、ラオス国全体の研究体制の強化と研究内容の向上を図る。また、サワナケート県において、保健スタッフと研究者の連帯・共同研究をモデル的に実施し、NHRFを通じて研究の質の向上と研究体制整備に繋げていく。
- **成果:** 中央レベルでは国家保健研究フォーラム開催/国家研究体制整備を行った。一方、県レベル(サワナケート県)では、ラオスサワナケート県(SVK)に確立された地域保健・人口把握システム(HDSS)と携帯電話網(MPN)を活用して収集されたデータの分析を通して、どのようなサービスが必要か、どういう改善が必要かを現地実践者自身が具体的に研究した。その研究成果を現地スタッフがNHRFで発表した。

## ラオスにおける海外拠点の活用





# ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の整備に関する研究



## 25指定5

# 海外連携施設における効果的な事業のありかたに関する研究

### 協定の締結

#### カンボジア

#### ミャンマー

#### インドネシア

### 国立母子保健センター

- ・臨床技術強化、日本人レジデントの現地研修およびカンボジア人本邦研修、研究(新生児および助産分野)による新生児分野における臨床能力強化支援
- ・年次報告技術報告会議実施(2013、14、15年)
- ・2015年10月JICA草の根スキームで、子宮頸がん早期診断早期治療に関する技術協力へ展開



NCGM関連の事務手続き等のために現地スタッフを雇用すること等により、環境を整える必要性(海外拠点として雇用)

### 保健省保健局(保健サービス局)

- ・年2回の研究に関する合同研究会(プロトコールミーティング)を実施
- ・それまでの保健局長とNCGM部長との覚書から、NCGM理事長との間の保健医療に有益な共同研究プログラム、人事交流、研修を主活動とする共同研究協定(2014年4月)
- ・多剤耐性菌に関する研究への展開(2015年8月)



- ・具体策として、保健省スタッフによる政策研究を推進、具体的な研究として、母子保健、非感染性疾患、病院TQM、家族計画、妊産婦の貧血、専門病院におけるART治療、デング熱の蚊対策、結核治療のジェンダー問題など

### スリアンティサロッソ病院

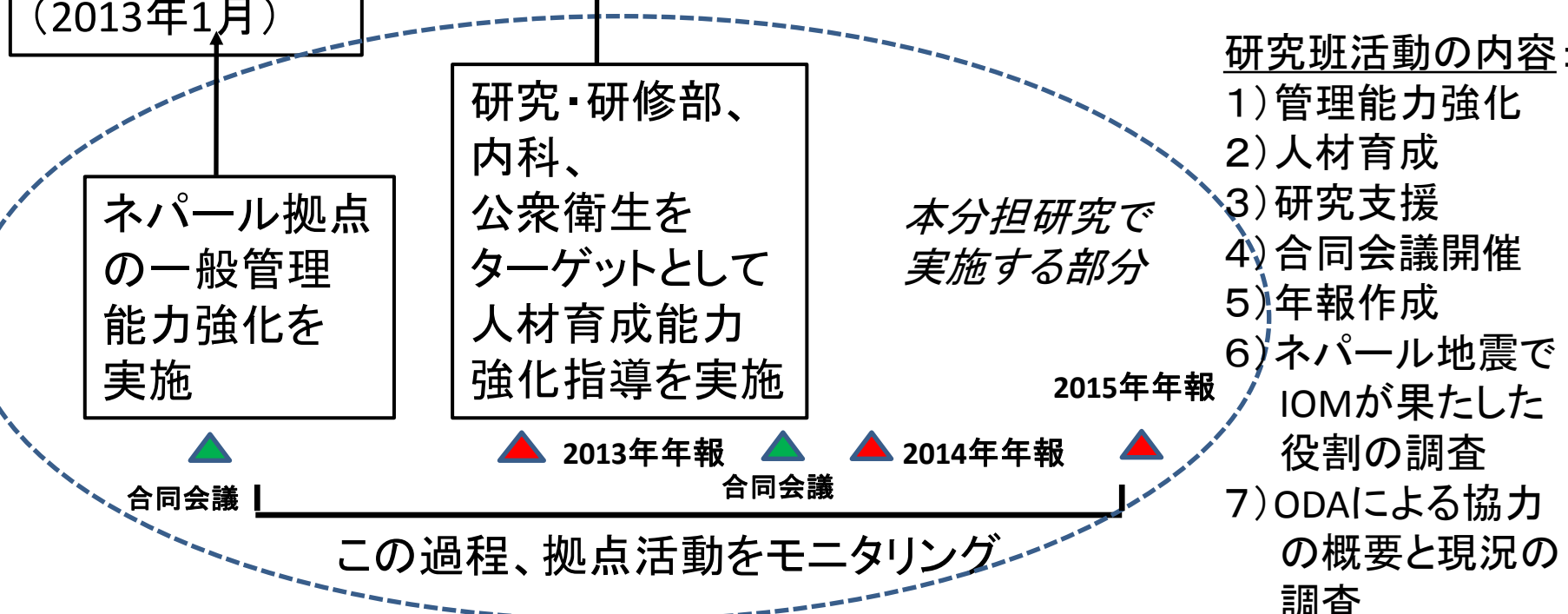
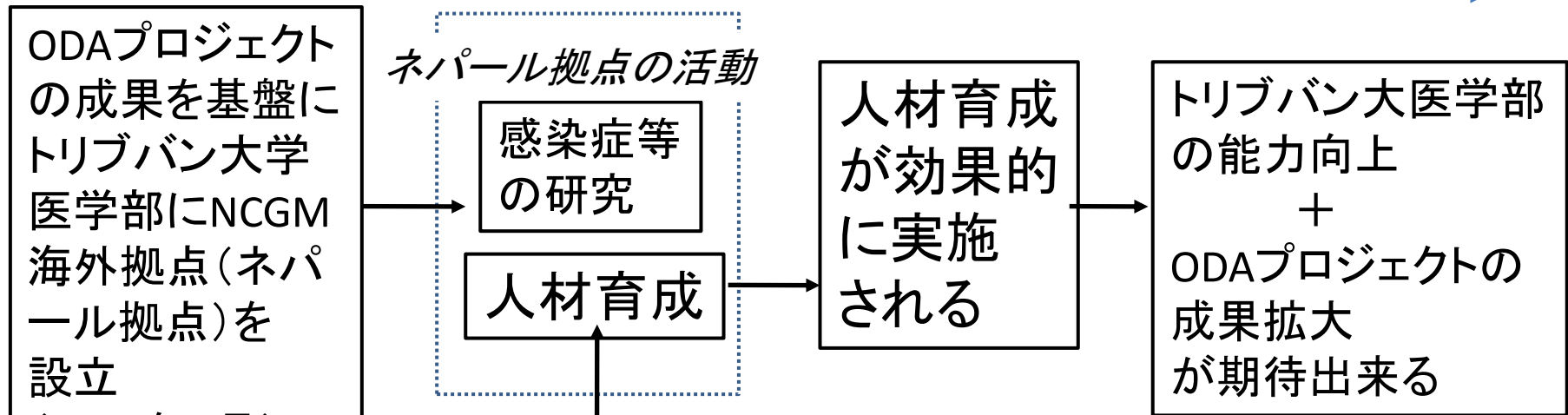
- ・インドネシア側のNCGMの役割とインドネシアにおけるスリアンティサロッソ病院の役割の類似性、感染症関係の国内に対しての研修などに感銘を受け、NCGMとの保健医療強力を強く希望
- ・NCGM側もDCCとしてMERS、鳥インフルエンザ関連の研究のフィールドの重要性を認識



- ・2015年5月にインドネシアにシンポジウム
- ・2015年12月に研究協力協定締結

# “ネパール拠点を活用した人材育成能力強化に関する研究-ODAプロジェクトの成果拡大を視野に入れて”

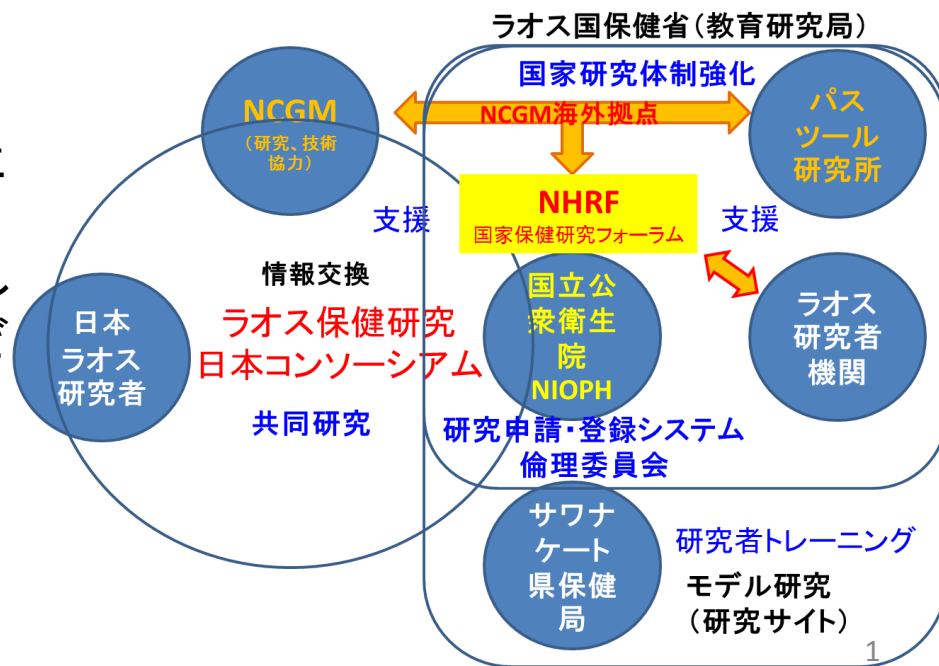
平成28年3月までに実施した活動



# NCGMの海外連携施設の活用と研究能力強化に関する研究

- 目的:** ラオスにおける海外連携施設(ラオス・パスツール研究所)との連携体制を確立することや、ラオス国保健サービス立案者・実施者(中央、地方レベル)との共同研究を行うことによって、ラオス国保健セクターの**研究能力の強化**および**強化方法等を開発**することを目的とする。
- 内容:** 「**ラオス国家保健研究フォーラム(NHRF)**」を通して、ラオス国全体の研究体制の強化と研究内容の向上を図る。また、サワナケート県において、保健スタッフと研究者の連帯・共同研究をモデル的に実施し、NHRFを通じて研究の質の向上と研究体制整備に繋げていく。
- 成果:** 中央レベルでは国家保健研究フォーラム開催/国家研究体制整備を行った。一方、県レベル(サワナケート県)では、ラオスサワナケート県(SVK)に確立された地域保健・人口把握システム(HDSS)と携帯電話網(MPN)を活用して収集されたデータの分析を通して、どのようなサービスが必要か、どういう改善が必要かを現地実践者自身が具体的に研究した。その研究成果を現地スタッフがNHRFで発表した。

## ラオスにおける海外拠点の活用



# ラオス国における保健分野の国家研究システム強化

## 1. ラオス国としての研究体制

- ラオス国における保健分野の研究のカウンターパート機関
  - ラオス国保健省DTR(研修研究局)
  - National Institute of Public Health(NIOPH)
  - University of Health Sciences of Lao PDR (UHS-Laos) (2007年6月設立)
- これまでは既存の調査研究の情報を管理するシステムがなく、国内外の研究者ならびに援助機関が既存のデータを把握するためには、(web検索可能な論文以外は)関連機関からの個別のヒアリングに頼るしかなく、調査の重複および得られる情報の統一性に限界があった。
- このような現状のもと、ラオス国保健省はNOPHを中心に同国における国家研究体制づくりを進めている
- 「保健研究の推進と管理に関する戦略(Strategy on the Promotion and Management of Health Research)」を発表

## 2. Lao PDR. Health Research Portal

- 2012年より(WHOの協力の下で)開発が進められ、NIOPHのサーバー上で開設された電子登録システム
  - ①同国における2012年12月以降の実施中または終了済の保健分野の研究(ヘルスリサーチ)が検索可能なデータベース
  - ②研究倫理審査申請のオンライン化
    - National Ethical Committee for Health Research  
(National Institute of Public Health)
    - Ethical Committee of the University of Health Sciences  
(University of Health Sciences of Lao PDR)

## 3. National Health Research Forum

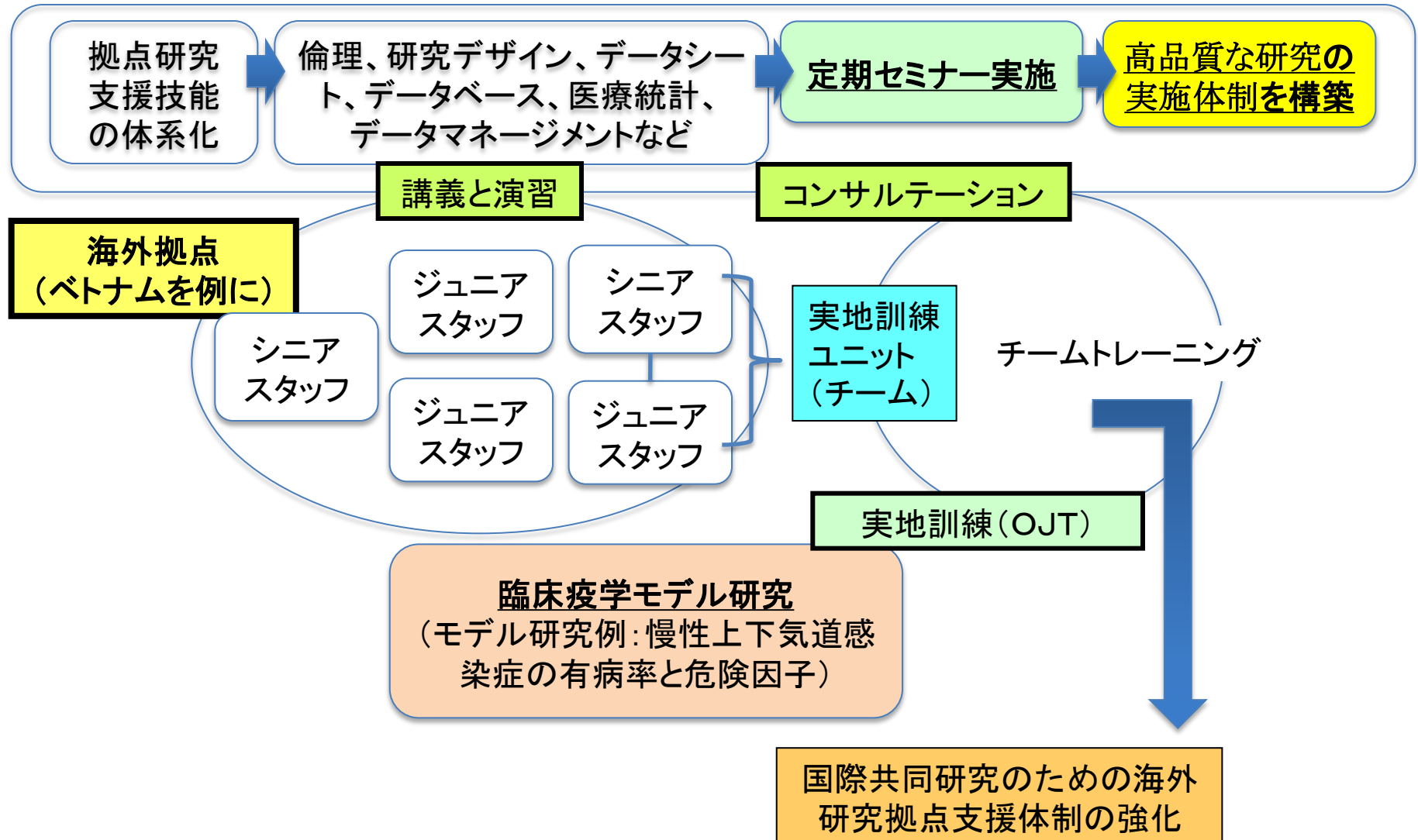
- 2007年より毎年1回開催。2016年は第10回を開催予定。開催主体は保健省、実施はNIOPH



<http://www.laohrp.com/index.php/laohrp/index>



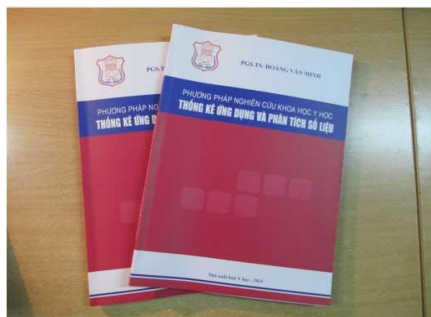
# ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の整備に関する研究



# 自立発展性を目指した臨床疫学研究技能セミナー とモデル研究による実地研修(ハノイ)



臨床疫学研修講義と実習



臨床疫学研修用テキスト



モデル研究を用いた実地研修

学会発表／報告書

論文発表

学位取得など

さらに大規模高品質の臨床  
疫学研究へ従事

\* 平成27年度、女子医  
科大学にて受講者1名  
論文博士(医学)取得

## 課題番号(25指5)

ネパール拠点を活用した人材育成能力強化に関する研究- ODAプロジェクトの成果拡大を視野に入れて

分担研究者名 : 小原 博

### 【研究目的】

ネパール国のトリブバン大学医学部(IOM)に設置されたNCGM海外拠点(ネパール拠点)の管理能力を強化することにより、共同研究の円滑推進及びネパール国における医療人材育成に寄与する。

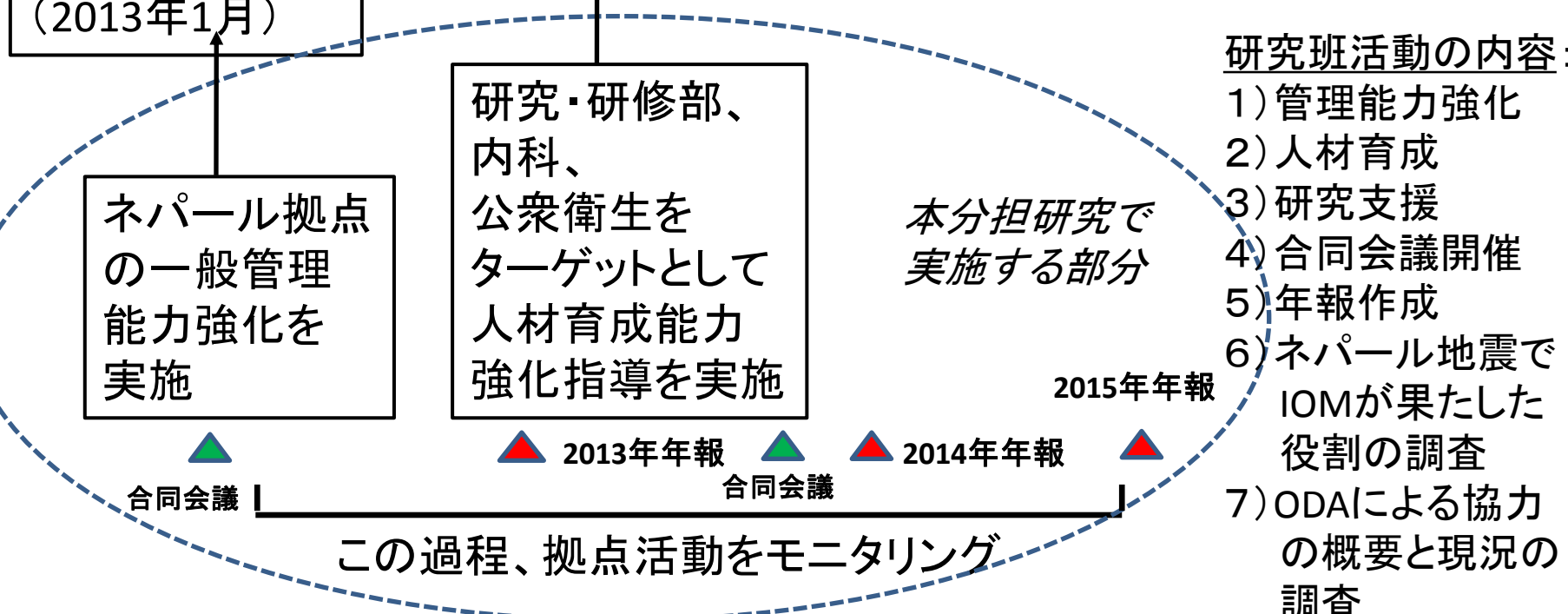
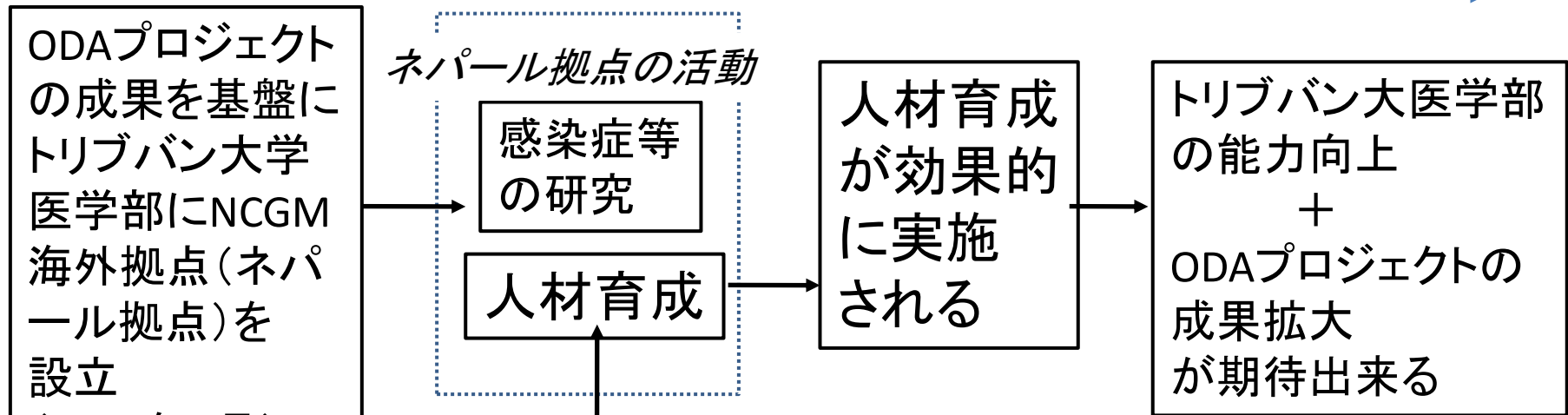
### 【平成28年3月までの成果】

1. IOM内にネパール拠点オフィスを設置し、必須器材を整備した。
2. ネパール拠点を活用した研究が順調に進捗しており、学会・論文等に発表した。  
(多剤耐性菌、院内感染対策、マラリア対策とヘルスシステム強化、感染症と糖尿病の2重負荷、新興病原体による下痢症等)
3. ODAによる協力の概要と現況に関する調査を実施した。
4. 呼吸器内科教室に対し画像診断読影の指導を行った。
5. カトマンズ市で合同会議を2回開催し、研究成果を発表した。
6. ネパール地震におけるIOMが果たした役割に関する調査を実施した。
7. ODAによる協力の概要と現況に関する調査を実施した
8. ネパール拠点の年報を作成した(2013、2014、2015年度: 上記1~7については年報に記載)。



# “ネパール拠点を活用した人材育成能力強化に関する研究-ODAプロジェクトの成果拡大を視野に入れて”

平成28年3月までに実施した活動



## 25指定5

### 海外連携施設における効果的な事業のありかたに関する研究

NCGMとの合同研究の実施（海外拠点）の可能性に関する研究 2010-2013  
（ベトナム、ミャンマー、ボリヴィア、ラオス、カンボジア、インドネシア、  
ブラジル、ザンビア、タイ、ネパール、ホンジュラス、アフガニスタン、）



NCGMとの合同研究の実施（海外拠点）の可能性に関する研究 2013-2016  
ベトナム(2010)、カンボジア（2012.12、2015.10）、ネパール（2012.10）、ラオス(2014.2)  
ミャンマー（2014.4、2015.8）、インドネシア(2015.6)に協定締結

仲佐分担 3か国

ネパール  
小原分担

ラオス  
三好分担

ベトナム  
慶長分担

カンボジア

ミャンマー

インドネシア

### 必要性と期待される成果

- 現地との信頼関係がある海外連携施設と協定を締結し、NCGMの将来の諸活動のための拠点とする。
- 独立行政法人となったNCGMの中期目標の「毎年1か所ー5年で5か所と連携協定を結ぶ」に貢献する。

## 25指定5

# 海外連携施設における効果的な事業のありかたに関する研究

### 協定の締結

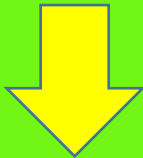
カンボジア

ミャンマー

インドネシア

#### 国立母子保健センター

- ・ 臨床技術強化、日本人レジデントの現地研修およびカンボジア人本邦研修、研究（新生児および助産分野）による新生児分野における臨床能力強化支援
- ・ 年次報告技術報告会議実施（2013、14、15年）
- ・ 2015年10月JICA草の根スキームで、子宮頸がん早期診断早期治療に関する技術協力へ展開



NCGM関連の事務手続き等のために現地スタッフを雇用すること等により、環境を整える必要性（海外拠点として雇用）

#### 保健省保健局（保健サービス局）

- ・ 年2回の研究に関する合同研究会（プロトコールミーティング）を実施
- ・ それまでの保健局長とNCGM部長との覚書から、NCGM理事長との間の保健医療に有益な共同研究プログラム、人事交流、研修を主活動とする共同研究協定（2014年4月）
- ・ 多剤耐性菌に関する研究への展開（2015年8月）



・ 具体策として、保健省スタッフによる政策研究を推進、具体的な研究として、母子保健、非感染性疾患、病院TQM、家族計画、妊産婦の貧血、専門病院におけるART治療、デング熱の蚊対策、結核治療のジェンダー問題など

#### スリアンティサロツソ病院

- ・ インドネシア側のNCGMの役割とインドネシアにおけるスリアンティサロツソ病院の役割の類似性、感染症関係の国内に対しての研修などに感銘を受け、NCGMとの保健医療強力を強く希望
- ・ NCGM側もDCCとしてMERS、鳥インフルエンザ関連の研究のフィールドの重要性を認識



- ・ 2015年5月にインドネシアにシンポジウム
- ・ 2015年12月に研究協力協定締結

研究発表及び特許取得報告について

課題番号：25指5

研究課題名：ベトナム海外拠点における高品質な臨床疫学研究の実施と支援体制の整備に関する研究

主任研究者名：三好 知明

論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Prevalence and Risk Factors for Post-Traumatic Stress Reaction Among Resident Survivors of the Tsunami That Followed the Great East Japan Earthquake, March 11, 2011.	Matsubara C, Murakami H, Imai K, Mizoue T, Akashi H, Miyoshi C, Nakasa T	Disaster Med Public Health Prep	2016, :1-8.	2016
Primary drug-resistant tuberculosis in Hanoi, Viet Nam: present status and risk factors	Hang NTL, Maeda S, Lien LT, Thuong PH, Hung NV, Thuy TB, Nanri A, Mizoue T, Hoang NP, Cuong VC, Ngoc KTT, Sakurada S, Endo H, Keicho N	PLoS One	8 (8): e71867	2013
Clonal expansion of Mycobacterium tuberculosis isolates and coexisting drug resistance in patients newly diagnosed with pulmonary tuberculosis in Hanoi, Vietnam	Hung NV, Ando H, Thuy TT, Kuwahara T, Hang NT, Sakurada S, Thuong PH, Lien LT, Keicho N	BMC Res Notes	6: 444	2013
Mycobacterium tuberculosis strains spreading in Hanoi, Vietnam: Beijing sublineages, genotypes, drug susceptibility patterns, and host factors	Maeda S, Hang N T, Lien L T, Thuong P H, Hung N V, Hoang N P, Cuong V C, Hijikata M, Sakurada S, Keicho N	Tuberculosis	94: p. 649-656	2014
Age-dependent association of mannose-binding lectin polymorphisms with the development of pulmonary tuberculosis in Viet Nam	Hijikata M, Matsushita I, Hang N T, Maeda S, Thuong P H, Tam do B, Shimbo T, Sakurada S, Cuong V C, Lien L T, Keicho N	Hum Immunol	75(8): p. 840-6	2014
Association between tuberculosis recurrence and interferon-gamma response during treatment	Hang N T, Matsushita I, Shimbo T, Hong L T, Tam D B, Lien L T, Thuong P H, Cuong V C, Hijikata M, Kobayashi N, Sakurada S, Higuchi K, Harada N, Endo H, Keicho N	J Infect	69: p. 616-626	2014
副鼻腔気管支症候群：日本からアジアへ	慶長直人	Therapeutic Research	37(6): pp 印刷中	2016
18. 難治性気道疾患（原発性線毛機能不全・びまん性汎細気管支炎）	土方美奈子, 慶長直人	内科	17(2):267-270	2016

研究発表及び特許取得報告について

Assessment of malaria control programs in relation to general health systems, with special reference to equality in bed net use. pp1-51, May 2015. (Submitted to WPRO/WHO)				2015
--	--	--	--	------

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
Development of the database on research/project in the field of nutrition in Lao PDR,	Miki Miyoshi, Sengchangh Kounnavong, Chiaki Miyoshi,	8th National Health Research Forum,	Vientiane Lao PDR	Oct 2014.
Development of the database on research/project in the field of nutrition in Lao PDR:Second report	Miki Miyoshi, Sengchangh Kounnavong, Chiaki Miyoshi	9th National Health Research Forum	Vientiane Lao PDR	Oct 2015.
ラオス国における保健分野の国家研究体制の強化に向けた進捗と今後の課題	三好美紀, Sengchangh Kounnavong, Boupha Thongmalayvong, 小林潤, 三好知明	日本国際保健医療学会学術大会、	東京	2014年11月
Characterization of patients with sinopulmonary disease in a Vietnamese hospital	N. Q. Chau, L. C. Dinh, P. T. Phuong, N. T. L. Hang, P. M. Thong, N. T. Huyen, M. Hijikata, k. Matsushita, N. Keicho	第55回日本呼吸器学会学術	東京	2015 4月17-19日,

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは( )記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。  
 ※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。